

NIPPORO公共放送インタビュー 第68弾

「“ありのまま”を記録し伝えよう」

“Don't give up Japan.
Don't give up Tohoku.”

イギリスの新聞『インディペンデント紙』に
3月13日に掲載された一節です。

元になったのは、お笑いコンビ
サンドウィッチマンの伊達みきお氏が
ブログで発信した
「日本をナメるな！東北をナメるな！」

世界を駆け巡ったメッセージを“発信”
した“被災者”は、今回の東日本大震災の
報道をどのように感じているのでしょうか。



サンドウィッチマン(お笑いコンビ) 伊達みきお 富澤たけし

インタビューの目的

2011年3月11日。宮城県仙台市出身のサンドウ
イツチマン、伊達みきお氏と富澤たけし氏の2人は気仙
沼市でのロケの最中、地震と津波に襲われました。

東日本大震災。

2万人以上の死者・行方不明者を出したこの災禍から、
辛くも生き延びることができた2人。彼らは被災者とし
てなにをメディアに求めてきたのでしょうか。そして、
発信者としてなにを伝えてきたのでしょうか。話を聞き
ました。

3月11日14時46分

—ロケの最中に襲った地震。当初はどんな風に感じて
いましたか？

大きい地震だとは感じていましたが、あそこまで被害
が大きくなるとは思っていませんでした。津波だって今
まで聞いていたのはせいぜい20〜30センチ。津波警
報は出ていましたが、どうせそんなもんだらうって。周
りに人もたくさんいたので安心感がありました。

山の方へ逃げたのはスタッフの判断です。沿岸部に住
んでいる人は日頃から震度3〜4ぐらいでも高台に避
難しているようでした。でも、なかには、津波警報に慣
れっこになっていて、ゆっくり逃げた人もいたんじゃない
かって思ってます。

—ご家族との連絡はいつ取れましたか？

地震があったときには、いつもすぐに連絡を取るようになっています。このときもいつものように発生直後に連絡をしたら確認が取れました。でも、しばらくしたら電話もメールも繋がらなくなってしまっただけです。

実家はテレビを見ることはできませんでしたが、東京の家族は、気仙沼の燃える映像を見ていてとても心配していたようです。連絡はとっていたんですけど、「燃えさかる炎のなかに旦那はいるのか？」と…。そんななか、ネットだけは使えたのでブログをアップして状況だけは伝えるようにしていました。

—被害の状況はいつ、どこで把握できましたか？

震災の情報を初めて手に入れたのは、避難先のホテルのロビーで聞いたTBC（東北放送）の生放送からでした。それまでは被災したのは気仙沼だけだと思っていたんです。だから、心配していたのは「明日仕事いけないな」ということ。北海道に行かなきゃいけないから、本当はその日のうちに東京に帰らなければいけなかったんです。でもそんな状況ではなくなっていましたから、それで、ラジオを聞いていたら、この地震は凄いい規模だということが分かって…。編成も24時間、震災報道に切り替えていました。全部生放送。送られてくるメールを読み上げているんですが生々しい。そのすべての情報をTBCも確認できていたわけではありません。しかし、断りを入れながら何度も繰り返されるメールは本当にリアルで、すごく恐い。牡鹿半島で1000体、東松

島で1000体の遺体が見つかったという情報は。停電でテレビやワンセグでは映像が確認できないから、想像が必要以上にかき立てられて。でも、仙台はメールが使えているんだとか、被害は東北全体に及んでいるんだなということは分かった。海沿いの人は大丈夫だろうかと思いを巡らせることもできた。改めてラジオはあったがいメディアだと思いました。

発信したかったこと

—被災者として、なにを伝えたいと思いましたか？

まず、仙台ではテレビを観ることができなかったのも、東京のテレビはどうなっているのか分からず、この状況に驚くのではないかと感じていました。初めてテレビを見たのはTBCで見たんですけど、専門家の方たちがしゃべっているんですけど、何か違うなあ…。と。セオリーなのかも知れないけど、現場の状況を見たら、彼らの言っていることなんてできない。だからこそ、「ありのまま」を伝えよう…。

それと同時に思ったのは安否情報を伝えたいということ。繰り返すようですが、電話がつかえず連絡が取れなかったのも、みんな不安だったんです。だから、被災の現状を伝えることも重要ですが、なんとかして安否情報を流せないかと…。だから、積極的に避難所などを映してもらうことをテレビに出演したときに訴えました。映像の片隅にでも映り込めば、それを見た人が安否を確認できるかも知れないという思いがあったからです。

でも、あとから気付いたんですけど、被災者はテレビ

を、仙台だったら震災から5日後くらいまでかな、見られなかったんですね。だから、被災者同士の安否確認はできなかった。でも、それがネットなりメールなりを通して伝わる可能性もあったので必要だったと思います。

取材者として被災をされている方を取材するのは当然ですが、プライバシーを侵害するのではないかというジレンマもあります…。

自分たちもカメラを引き連れていたので、話をするのに気が引けたりもしましたけど、やっぱり、そういうことをするのが、メディアの仕事なんだと思いましたよ。特にNHKの取材は煽るわけでもなく、事実を淡々と切り取っていたと思います。南三陸のドキュメントだったんですが、NHKの記者が取材をしながら泣いている。それを逆に被災した方が「泣かないで」と勇気づけるようなシーンがあったんですが、そういった形での取材を続けて欲しいし、放送ももつとして欲しい。そのドキュメンタリーを見てると分かるんですけど、カメラを気にしていた被災者はいませんよ。でも、そういったことをできるのはNHKだからだと思います。今回も被災者の「声」をそのまま伝えていて、美化していない。そういう日頃からの積み重ねで信頼されているんです。民放はそうはいかないという話も聞きましたから。

笑いを届けたくオールナイトニッポン

震災から1週間後、オールナイトニッポンに出演されました。どんな心境でパーソナリティーを務められましたか。

たか？

どのテンションでやるかというのは、すごく難しかったです。ディレクターからの指示も特にありませんでした。ただ、この放送は震災が発生して東北地方で流れる初めてのバラエティー番組でした。ですので重心は若干、被災地にありました。とはいえ、2時間暗い放送を流して、東北地方の方に「暗い」と思われるのも嫌だったし、ほかの地域の人たちが聞いて、僕らのことを「かわいそう」と思われるのも嫌だった。だから、通常通りにふつうに、笑いもいれてやろうと決めました。不謹慎だとクレームが来たら仕方がないと。もう、そこは腹をくつてやるしかないですね。

でもそんなクレームする人いないですよ。実際、リスナーから「この放送を聞いて震災後初めて笑った」という反響もあったわけですから。

東京は自粛ムードが蔓延していましたが、東北に住んでいる方も笑いたいと思っていた人もいたんですね。

海沿いの人はそれは本当に大変だと思います。でも、実家のある仙台の被害は地震だけというのも変ですが、津波の被害はありませんでしたから、姪っ子や甥っ子はろうそくの明かりでキャンプだとはしゃいでいました。そういう一面もないわけではないんです。

そういうことも含め「ありのまま」の報道が必要ですね。

いまの報道は徐々に復興へ復興へと軸足が置かれています。確かに暗いことばかりやっています。前進はしませんから、前向きな姿勢を報道するのは悪いことではありません。でも、ままならないところもあるし、そういう心境になれる人もいない人もあるわけです。だから、バランスをもって報道することは重要だと思います。



偏った報道というつもりはありませんが、支援物資なんかの報道を見てみると、もう全部足りているかのようになっていきます。ところによっては余っている…。でも、それは全然違う。海沿いなんかは、隣近所が一つの家にならなくて避難しているところもあって、全体を把握しきれないから、届いていないところもまだまだたくさんある。こういった報道は被災地以外に向けられているわけですから、「もう東北は大丈夫」と思われると困ります。

それから義捐金。本当にみなさんからの有難いご厚意なのにも関わらず、どうなっているかが分からない。やっぱりちゃんと渡せていないなら渡せていない事実を伝えなければいけない。県外に避難していて連絡がつかないとか、どう分配するか決められないとか。そうでな

ければ、みなさんに納得してもらえませんか。それにね、聞いた話ですけど、本当に必要な人は声をあげないようなんです。家も流され、家族も流された人はそんな気力すらないんです。そういった声なき声にも耳を傾けるような、そういう報道もしてほしい。アンケートなんかもよい手段だと思いますが、物言わぬ人たちの表情だけでも伝えられれば良いと思いますよ。

ネット情報の功罪

—お二人は発災後、すぐにブログを開放されて安否情報に使われていました。また、伊達さんが発信した「東北をナメるな！日本をナメるな！」はイギリスの新聞『インディペンデント紙』[※]にも意識され掲載されました。そういう意味ではネットの威力も実感されたのではと思いますか？

そうですね。ブログで発信していたのは電話もメールもできない状況でしたから、そこにいる人間としてリアルなことを書きつつも、安心感を伝えたかったんですね。僕らのブログなんて、あまり見てもらえていないかも知れないけど、一人だけでも良いから、それで安心してもらえるならばという思いでやりました。「東北をナメるな！日本をナメるな！」は、大変だけれど、頑張ろうという思いですよ。それを全国に伝えたかった。どんな形でも良いから、届ける届けられることがとても大切な事だと思いました。

でも、その一方で、こんな時にでも、噂のメールやチェーンメールがたくさんあって…。でっ、その情報が本当なのかデマなのか正直分からないんです。助けて

※インディペンデント紙
1986年創刊のイギリスの既存の新聞のなかでは最も新しい高級紙。現在はタブロイド判だが、高級であることに変わりはない。発行部数はおよそ25万部。伊達氏発信の文言は、2011年3月13日の日曜日に掲載されている。

下さい、何も食べてないんですってコメントが来る。そんな余裕があったら、行政機関とかしかるべきところに連絡していると思うんですけど、それが広がってしまう。実際、気仙沼市役所の人にこのブログの話をしたところ、やっぱり噂は耳に入っていて大丈夫ですって。地元だったら把握できますよね。それぐらいのことは。威力もあるけど、問題もあるなと感じました。

継続的な報道を

ーもっと伝えてほしいことは何ですか？

災害報道は一段落すると忘れ去られてしまいがちです。NHKはだいぶ放送していますが、それでも一時期に比べればだいぶ減っています。民放はほとんどやっていません。ですので、継続的に放送して欲しいですね。それと、実は被災者は停電の影響で映像をほとんど見えていないんです。たしかに、番組の一部で断片的な映像は見えているとは思いますが、発災当時の圧倒的な映像は見えていない。放送するには問題があるのは分かりますが、今後、こんなことは2度と起きて欲しくはありませんが、情報の共有という視点から、被災者の方にも見ておいて欲しいので、機会をとらえて放送して欲しいですね。

もっと助けてくれている人に目を向けて

死者や行方不明者の数は伝わってきますが、自衛隊の方々が助けてくれた人の数も伝えてほしいですね。彼らが助けてくれた人は3万人を超えとも言われているのに、なぜ、報道しないのでしょうか。政治的なこともあるとは思いますが、泥だらけになりながら頑張ってくれているのは彼らなんです。自衛隊はそれが当たり前のように思われていますが、仕事とはいえ、精神的に滅入ってしまう現場がそこにはあるわけです。だから、もっと励ましてほしい。

アメリカも中国も、海外からもたくさん助けにきてくれているんです。本当にありがたいですよ。でも、何をしているのかとか、ほとんど伝えていないんですよ。マスコミにも本当に感謝しています。震災直後にどんな被災地に入って報道してくれている。何台もの報道車両と東京に帰って来る前にすれ違いましたしね。僕らが被災した時にいたクルーも高台から「ぎりぎりまで降りる」といって、津波を撮りにいってました。夜もサインが鳴るたびに跳ね起きては、といってもほとんど寝ていないんですけど、カメラを回しに行っている。聞けば、家族の安否すら確認していない。プロだと思いましたがよ。

政府でも東電でも叩くのは簡単ですけど、頑張っている人にも目を向けて評価をして欲しいですね。



インタビューを聞いて

何か起きると人はどうしても誰かの所為にしたくな
ります。しかし、友人、知人が被災されているにもか
わらず、サンドウィッチマンのお二人の口からそうい
った恨み節は一切聞かれませんでした。その思いはある
かもしれないが、心の奥底にしまい込んで、前を向く
その姿に東北人の強さ、そして復興への強い意志を感じ
ました。

放送の使命のひとつに「歴史を記録し未来へつなげ
る」ことがあると思います。今後どのような放送を出し
ていくか。出し続けていくか。紙媒体、ソーシャルメデ
ィアとは違う形の「歴史の証人」として「事実をどれだ
け映し出すことができるのか」。その真価が問われてい
ると感じました。

報告 放送渉外部長 竹内哲哉